

2023 年度支部活動【中部支部】開催報告 「日本語教育プログラム」像を描いてみよう！

主催： 公益社団法人日本語教育学会
開催日：2023 年 10 月 7 日（土）13：30-16：00
会場： 愛知淑徳大学 星が丘キャンパス 13B 教室
参加人数：22 名
（会員 16 名・言語教育プログラム研究会メンバー6 名）



10 月 7 日（土）に中部支部活動「日本語教育プログラム」像を描いてみよう！を、愛知淑徳大学 星が丘キャンパスで開催しました。講師には、国立国語研究所／総合研究大学院大学の松下達彦先生、国際高等専門学校の札幌寛子先生をお迎えし、またワークショップには言語教育プログラム研究会のメンバーにも協力をいただいて、2 時間半という短い時間の中で講義とグループワークの両方という濃厚な内容で実施することができました。中部エリアの方だけでなく、全国各地から 16 名の参加があり、実りある時間を過ごすことができました。



前半は、松下先生より「言語教育プログラム可視化テンプレート」ができた背景やプログラムレベルでとらえるということがどういうことなのかについて、具体例を挙げて詳しく講義いただきました。

今回は事前課題があり、各参加者が事前に自分が身を置いている（関わっている）プログラムについてテンプレートに記入をしてくるようになっていたため、中盤からは自分が記入してきたものを手元に置きながら「プログラム」像を考えるとというワークショップが行われました。松下先生からは、「記入しにくかったのはどの項目で、それはなぜか」「記入が難しかったのは、職責により情報格差が生まれているからだとするれば、それをどう考えるべきか」「よりよいチーム作りとは」「権限のない立場でできることは何か」「権限のある人は何をすべきか」などの投げかけがあり、各グループでそれぞれの問いについてディスカッションしながら意見をまとめて発表をしました。

後半は、日本語教育プログラムの目標をどう設定するかと、プログラムの評価をどうすればよいかについてグループで検討しました。大学、民間の日本語学校、地域日本語教室など、様々な主体の立場から意見が出され、終わりには札幌先生から全体に向けてプログラム評価についてまとめのコメントがありました。

事後アンケートには、「プログラムを評価する」という新しい視点を学ぶことができたという声や、日本語教育プログラムを決める職責がない場合でもプログラムについて考え続けていくことは大事だと感じたなど、多くの方が今回の支部活動に満足したとの回答をいただきました。この場を借りて、本支部活動にご参加くださった皆様、そしてご協力くださった関係者の皆様に心よりお礼申し上げます。

（報告者：中部支部活動委員 鈴木崇夫・松尾憲暁・山本裕子）